

いがあえエ虎

新年おめでとうございます

ニックネーム:

本誌へのメッセージ:



きりとり

CHECK 看護師・介護福祉士・看護補助員を募集しています!! お気軽にお問い合わせください ☎ 059-382-1401
WEBはこちら 鈴鹿厚生病院

ほっとニュース

感染対策について

当院では、来院される方の手指消毒・検温を実施し院内感染防止に努めております。このたび、手軽に購入していただけるよう1階総合案内の公衆電話横に「マスクの自動販売機」を設置いたしました。

引き続き、院内感染防止のためご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。



●外来診療担当医表

		月	火	水	木	金
午前	初診	交代制	交代制	交代制	交代制	交代制
	再診	高山	中澤	林	西浦	鈴木
午後	再診	中瀬	野村	金原	中瀬	大井
				宇佐見	山村	
	再診	河合	西浦	宇佐見	高山	大井
		濱口	野村		山村	前田
			金原			

担当医は都合により変更になる場合があります。ご了承ください。

2020年4月より敷地内禁煙となっております

理念 ささえあい、ともに生きる

基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
 - 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
 - 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
 - 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みます。

編集後記

今号は「新年のごあいさつ」などをお伝えしました。さて、広報委員のスタッフは「Live with すずか」の名のとおり、皆さんと一緒に創っていきたくと考えております。本誌へのご感想やご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

TEL・059-382-1401 (代表) FAX・059-382-1402
Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

三重厚生連 鈴鹿厚生病院

第68号

2022.1月

発行/三重県厚生連鈴鹿厚生病院
編集/TCK名古屋
所在地/三重県鈴鹿市岸岡町589-2
TEL/059-382-1401
ホームページ/http://www.miekosei.or.jp/skh/

ともに生きる... Live with すずか

地域の皆さんのお役に立ちたい情報誌

新年のごあいさつ

2022

あけましておめでとうございます。

皆さまには日頃より当院へのご理解、ご支援をいただきまして誠にありがとうございます。年頭に当たりまして一言ご挨拶申し上げます。

申し上げるまでもなく、昨年も新型コロナウイルス感染症の影響が、医療のみならず多くの社会生活の場面で色濃く映し出された一年でした。当院では一昨年に経験したアウトブレイクを教訓として、病院全体で緩まない感染対策を継続して講じますとともに、鈴鹿市役所など行政によるご支援を受け、患者さんやそのご家族を対象としたワクチン接種を積極的に進めることができました。

これから3回目のワクチン接種が予定されています。これからは昨年までのような守りを固めることに主眼が置かれた対策から、より日常活動とのバランスが重視される対応へとシフトされ

るように感じられます。メンタルヘルスにおいても活動や参加などを通じた生活機能の回復が今年の課題と言えるかもしれません。

このような非日常が続く一方で、例年のようにフレッシュな仲間が入职して、病院を盛り立ててくれました。その中には、一昨年度から長野県厚生連北アルプス医療センターあづみ病院で精神科専攻医の研修を開始した若手医師、三重県厚生連大台厚生病院から異動した感染管理認定看護師もあり、当院の医療の質向上に大きく寄与してくれています。それぞれの専門性に加え、多様な経験や世代、考え方や価値観などは、チーム医療を実践するわたしたちの力の源泉となります。

このコロナ禍では、幾度となくこれま



三重県厚生連 鈴鹿厚生病院 院長 中瀬 真治

での当たり前を見直す必要に迫られました。わたしたちはそれを機と捉え、当院の理念である「ささえあい、ともに生きる」が実践できているか、丁寧に振り返りながら地域の皆さまの期待に応えられる病院づくりを目指します。

引き続き、今年もどうぞご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

院内散策 憩いのPOINT



さくら

新緑

こいのぼり

当院の正面玄関を入った真正面に季節の展示をしているのをご存じですか？デイケアセンターのプログラム「ものづくり」で制作した作品です。

利用者様とスタッフが協力して、季節を感じられるテーマを考え、身近な材料を使って制作しています。

今まで「満開の桜」「こいのぼり」「あじさい」「花火と風鈴」「ハロウィン」など様々な作品を展示してきました。

この広報が発刊される頃には何が展示されているでしょうか？

病院玄関が華やかになるように、診察の待ち時間が楽しめるように、これからも作品を作っていきたいと思っています。



花火



ハロウィン



菊



猿と栗

南瓜

今回は、当院、認知症治療病棟で患者さまと看護師、作業療法士が育てた南瓜を紹介します。南瓜の旬は秋から冬ですが、収穫されるのは夏から初秋にかけてです。収穫してすぐにおいしく食べられるものもありますが、3ヶ月程おいて甘みを引き出してからのほうが美味しいものもあります。ヘタの部分がコルク状に乾いてひびが入ってくると美味しくなった目安です。

南瓜は、β-カロテンやビタミンE,Cをたくさん含んでいて、免疫力の強化や細胞の老化予防に効果を期待できます。

日本では、煮物にすることが多いと思いますが、少し厚めにスライスしてグリルやオーブンでじっくり焼くと、甘味が増します。サッとバターで風味付けしたり、サラダ等にも使えます。

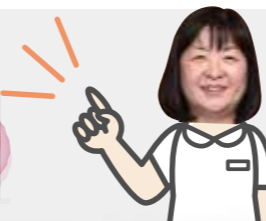
また、かぼちゃプリンなどのお菓子にしても楽しめます。

かぼちゃは生のままだと非常に硬くて、包丁の刃も折れそうになるので、切る前に、電子レンジにかけると、とても切りやすくなります。



収穫後

看護部長の



私のパソコンの前には招き猫さんが座っており、私を癒やしてくれます。新型コロナウイルス感染症が終息し、福を招いてくれるよう願っています。



作業療法活動紹介



「手紙を書いて、ポストに入れましょう！」



地域の関係機関のご紹介



地域包括支援センター

鈴鹿第3地域包括支援センター（やまぶき）

鈴鹿第3地域包括支援センター（やまぶき）は、鈴鹿亀山広域連合から委託された機関で、地域の高齢者の方が住み慣れた地域で安心して生活していけるように、介護、福祉、健康、医療などさまざまなご相談に対応している総合相談窓口です。やまぶきでは、一ノ宮・神戸の地域づくり協議会圏域を担当しています。この地域でも鈴鹿市内の他の地域と同様に人口減少、少子高齢化が進んでいく傾向にあり、独居高齢者の方や二人暮らしの高齢者の方も増加しています。街中ではあるものの買い物や通院に困る方や空き家も増えつつあります。また、昔ながらの近所付き合いの希薄化などもあり、高齢者の孤立も心配されます。当センターでは、主任介護支援専門員・保健師・社会福祉士などが中心となり、関係機関と連携しながら「チーム」としてさまざまな側面から支援します。明るい黄金色の花色をもつ「やまぶき」のように、明るくきめ細やかな対応をこころがけておりますので、どうぞお気軽にご相談ください。



スマイリーバトンリレー

西3階病棟

西

3病棟は、女性患者さまの療養病棟です。患者さまも、職員も女性で構成されています。急性期を過ぎ、長期的に療養が必要な方に対して治療・看護を行っています。単調になりがちな入院生活に、作業療法士を中心に毎日の作業療法活動や、月に1回のレクリエーションを実施し、療養生活に刺激や楽しみを感じられるよう職員一同努めています。コロナ禍であり、以前のように買い物や、外食などの院外活動はできませんが、患者さまと共に外出できる日を楽しみにしています。